

新規採用予定職員研修会

東部支部

期 日 令和四年二月十七日～十八日
参加者 四十八名

今年度はコロナ禍の新規採用研修会という事で初の全日程リモート研修となりました。会場の沼津プラザヴェルデ内からZOOMでの研修内容となり、参加者の顔がみれなかったことは残念ではありましたが、リモートならではの、チャットをつかったコミュニケーションやアンケート等から確かに受講している人たちがいる感覚をもちました。研修内容では、一日目は芸術をとりいれた講義内容となり、講師に常葉大学の長橋秀樹氏と武蔵野美術大学の松島誠氏による「乳児から幼児への発達段階における表現活動の意義」の講義を受けました。印象的だったのは、魚を自分の手に模して、筆でいろんな形に描きながら、一つの作品にしあげていく。なんだか、楽しく、子どもが実際にやったらどうなるの可想像すると実践したくもなりました。午後の講義では勝又ひで子先生による接遇講義「社会人として大切なこと」を受けました。「ありがとう」ひとつとっても、色んなバリエーションがある一方で、言葉にすることの大切

さや、最低限度の礼儀等を教えて頂きました。二日目の講義では、「保育園・認定こども園等にとって一番大切なこと」を県保連土山雅之会長、「あなたにとって一番大切なこと」を県保育士会吉川慶子会長より、それぞれ保育園、保育士の使命と役割、基礎知識を教えただきました。午後の講義ではNPO法人浜松こどもとメディアリテラシー研究所代表の長澤弘子氏による「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」スマホやインターネットの活用方法やそれに注意する方法等についてお話を聞きました。SNSを使う事が今や当たり前になっていますが、周囲に発信する事への危険や注意点を改めて認識できました。最後の講義では、後藤実行委員長によるチャットや事前アンケートでの新規職員にむけての「現場からのアドバイス」と題してお話を聞きました。「現場での不安」や「対人関係」新しく新社会人としても当然の悩みや、現場でつかえるちょっとしたアイデア、考え方等の話をさせていただきました。今回の新規採用研修会では、直接顔がみれないこともありましたが、その後のアンケートなどで各講義の内容も含めて参加者からご意見をいただきました。ありがとうございます。その中で「やはり対面で会いたかった」等の意見もある一方で「集中して講義に

臨めた」等の意見もあり、リモート研修も研修会での一つのやり方なのだと思います。最後に、お忙しい中、快くご協力いただいた実行委員の皆様、講師の先生方におかれましても依頼を受けて頂き、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

実行委員長

すみれ認定こども園 後藤恭佑

中部支部

期 日 令和四年二月十七日～十八日
参加者 五十三名

今年度は、コロナ感染対策として、リモート研修となりました。

講義一は、県保育連合会会長 土山雅之氏より、「保育所・こども園の使命と役割」というテーマで保育所の法的な位置づけ、社会的な使命について、また、現在保育所こども園が抱える問題などについてお話しいただきました。

講義二では県保育士会会長 吉川慶子氏より「保育者としての役割」というテーマで保育者としての服務規律や危機管理意識、コロナ禍における感染対策と保育の工夫、子どもの権利条約等についてご講演頂きました。

午後は、以前この研修に参加し現在春日保育園勤務一年目の都甲聖華さん、一番町保育園勤務六年目の馬場菜摘さんに、実際に保育

に関わつての体験談を聞かせて頂きました。

その後は明星保育園の櫻井英世先生の手遊び・歌遊びの実技指導がありました。リモートでの研修でしたが、画面越しの参加者の皆さんが、櫻井先生の真似をしながら手遊びなどに取り組み、笑顔も増えました。

布普及協会代表のさとうゆきこ氏の講義は子どもの成長発達とおもちゃを通じた保育者のかかわりや、実際子どもが遊ぶ姿などを見ることが具体的に学ぶことができました。

駿河子どもとも社取締役高林快晴氏より「子どもと絵本」というテーマで絵本の楽しみ方を、お話し頂きました。先生の読み聞かせ方や、実際お子様と楽しんでいた様子から、まず、大人が絵本の世界を楽しんで子どもと共有していくことが伝わりました。

土方良子先生によるご講義は、「保育士としての在り方」服務接遇、保育者として働くモチベーションの高め方等、一人一人が積極的に参加していけるよう、土方先生により声掛け、指導を頂き、コミュニケーション力がグンと高まりました。ワークアウトルームで、グループ討議も活発に行い、リモート研修であることを忘れるほどでした。

最後に研修委員が研修生の質問、疑問、不安などについてお話しする時間をもうけました。少しでも皆さんに役立てばと思います。四月から研修生の皆さんの力が大いに発揮できますように陰ながら応援しています。終わりに、講師の先生方や実行委員の皆様、リモート操作にご協力いただいた皆様のおかげで

新採研が無事に終了できましたことをここに感謝申し上げます。どんな時にも今できる最高のことを子どもたちと楽しみましょう。

実行委員長 一番町保育園 海野美代子

西部支部

期 日 令和四年二月二十一日～二十二日

参加者 八十五名

新型コロナウイルス感染症対策のため、Zoomを利用しての開催となりました。

一つ目の講義は静岡県保育連合会の土山雅之会長より「保育所・認定こども園の使命と役割」というテーマで講義を頂きました。静岡県保育連合会の活動や役割について学ぶ機会となりました。現在の保育業界は待機児童よりも少子化による定員割れの問題が大きくなっており、今後各園において、保育の質の向上が求められていることがわかりました。

二つ目の講義は静岡県保育士会の吉川慶子会長より「保育者としての自覚と責務」というテーマで講義をしていただきました。保育士会の成り立ちや全国保育士会や各支部を含む活動と役割について学ぶ機会となりました。また、保育者の倫理観について深く学ぶ機会となり、倫理観を高めるために先のことを見通すことや他者への理解が必要になることを学びました。

三つ目の講義は浜松こどもとも社の安田

友昭氏に「子どもと絵本をひらくとき」というテーマで講義をしていただきました。保育の中で欠かすことが出来ない絵本について、学ぶ機会となりました。

四つ目の講義は百町森の柿田友広氏に「子どもの成長と絵本・おもちゃ」というテーマで講義をしていただきました。絵本が入り口、おもちゃが出口となり、読んだ絵本の世界観をおもちゃで表現したり、遊びに展開されたりすることで、知能以外にも非認知能力の成長も促されると学びました。

五つ目の講義は有限会社アップハートの勝又ひでこ氏に「社会人として一番大切なこと～人間関係と服務接遇～」というテーマで講義していただきました。第一印象の大切さを学び、その為の基本は笑顔での挨拶であるとわかりました。今後は組織人としての振る舞いが求められること、チームプレーの重要性についても学ぶことができました。

最後の講義は浜松こどもともメディアリテラシー研究所の長澤弘子氏に「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について～最近のネット・ケータイ・スマホ～」というテーマで講義していただきました。インターネットのメリット、デメリットについて改めて知る機会となり、社会人としてのSNSの使い方を考えさせられました。

リモートでの研修ということで、難しい点はありましたが、皆様のご協力により開催できたことに感謝申し上げます。

実行委員長 まつばこども園 山田佳敬